

現地メディア向けにODA視察ツアーを実施しました

3月9日、日本大使館は現地メディア向けにプレスツアーを実施し、新聞・テレビ・ラジオ放送局12社から12名のジャーナリストとカメラマンが参加しました。このプレスツアーは、日本の開発協力が現地メディアで取り上げられる機会を増やすとともに、南スーダン共和国の政府関係者、知識人層および南スーダン国民への情報発信を強化するためのものです。

プレス一行は、ジュバ市ウストラツナ地区、グンボ郡、テレケカ郡を訪れ、「ジュバ市および周辺地域における母子保健医療実務者に対する能力強化計画」(OVCI 連携)、「南スーダン緊急支援2014 事業：ジュバ国内避難民とホストコミュニティ支援」(ジャパン・プラットフォームのうちピースウィンズ・ジャパン (PWJ) が請負)、「南スーダン緊急支援2014 事業：南スーダン共和国中央エクアトリア州ジュバ市および近郊における子どもたちへの暴力予防及び暴力被害者支援」(ジャパン・プラットフォームのうち日本紛争予防センター (JCCP) が請負)、「中央エクアトリア州テレケカ郡リジョン・プライマリーヘルスケアセンター母子保健能力強化計画」(Magna 連携)の視察を行いました。



「人間の安全保障に根ざした保健及び紛争予防分野における日本の支援」

まずは「ジュバ市および周辺地域における母子保健医療実務者に対する能力強化計画」を視察。当プロジェクトは、日本の支援で建設した施設で、当地の保健関係者を対象とした定期的なトレーニングを実施することで、南スーダン国内の深刻な医療関係者人材不足からの脱却を目指していることが、同プロジェクトの PR ポイントでした。視察では当プロジェクトを実施した、国際 NGO の The Volunteers' Organization for International Co-operation (OVCI) 代表者から案件の詳細についての説明があり、記者たちは熱心に耳を傾けていました。



ついで、グンボ郡の「南スーダン緊急支援 2014 事業」実施先を訪れました。当地では、ジャパン・プラットフォームを通じてピースウィンズ・ジャパン (PWJ) が「ジュバ国内避難民とホストコミュニティ支援」を実施し、日本紛争予防センター (JCCP) が「南スーダン共和国中央エクアトリア州ジュバ市および近郊における子どもたちへの暴力予防及び暴力被害者支援」を実施しています。学校トイレの設置や地道な水衛生普及活動の成果として、当コミュニティにおける昨年のコレラ感染被害者が皆無であった事がコミュニティ代表者から発表されました。また、児童を安全に保護するための子ども広場の設置に対する感謝の声がコミュニティから聞かれました。



最後に、テレケカ郡の「中央エクアトリア州テレケカ郡リジョン・プライマリーヘルスケアセンター母子保健能力強化計画」実施先を訪れました。当地では、国際 NGO の MAGNA を通じリジョン村に建設された母子保健センターをコミュニティに引き渡す式典が開催されました。紀谷大使は、「母子保健は女性の尊厳にとって極めて重要であり、当センターは出産に纏わる困難を軽減することに大きく寄与するだろう」と述べました。コミュニティの保健委員は、「当地の母子保健状況は大幅に改善するだろう」と喜びの声を記者たちに寄せました。

プレスツアー後、テレビやラジオでは次々と我が国の開発協力の取り組みが報道され、翌日の紙面では、「テレケカ郡の母子保健センターを日本が供与」等と銘打たれ、我が国開発協力事業が大々的に取り上げられました。多くの市民が目にする新聞各紙で開発協力事業が取り上げられることで、南スーダン国民の我が国開発協力事業への理解もより一層深まったのではないかと思います。

関連リンク（外部サイト）

グルトン紙(英字紙): [『日本がテレケカ郡リジョン村に母子保健所を供与』\(英字原文 “Japan Hands Over Maternity Ward to Terekeka’s Rijong Payam” \)](#) (2016年3月13日付け)

